

るの は な

千葉大学医学部同窓会報 第70号 題字 鈴木 五郎

編集兼発行者

千葉大学医学部

るの は な 同窓会報編集部

〒280 千葉市亥鼻1の8の1

千葉大学医学部庶務係気付

電話千葉(0472)22-7171内線2012

同窓会長を引継ぐに当って

千葉大学医学部のるの は な 同窓会長

小林 金 市

このたび不肖私が、故大塚会長の後を受けて、るの は な 同窓会長に就任することになりました。誠に光栄に存すると共に、その責任の重大なるを感じ、身の引締まる思いであります。幸にして会員諸兄の御指導、御鞭撻を得て、その責を果たしたく、深く御協力を御願ひ致します。



医学界は、現在重大な変革期を迎えております。保険・医療費・医事紛争・医師激増等の諸問題を始めとして、困難な課題を多くか、えております。

我が国の国内事情をふりかえりみますと、文化の進展、重工業化の躍進は、めざましく、それに伴って疾病構造の変化、人口構成の老令化等をきたし、医療費は、どこの国でも著しく増高しつつあり、我が国でも数年後には、GNPの13%にも達しようという状態になると予想されております。

従ってこれからの医療は、待避的、防衛的な診療では、医師激増の時代に向って、道義的にも、医療経営の上でも、許されなくなり

ます。そこでこれに対処する方法の一つに、グループ診療が執り上げられます。このグループにも種々あり、同窓のグループが、各所に見られるようになって参りました。今後の医療におきましては、このような意味あいからも同窓会の存在が再認識される時代になって来たと考えております。

医師激増の問題も加速度的に、数年にして、人口10万対221名(現在10万対121名)の医師数となり、世界一多い数となります。この状態が続けば、医師の失業者が必然的に発生します。当局も、日本医師会の意見を取り入れて、文明国の適性の医師数、即ち人口10万対150名位の数にまで、医師教育定員を減らして、安定するまでは、この解決は望み得ない訳であります。そこでこの対策として、われわれ同窓会員は、新卒の後輩および勤務医師を、ことごとく包容して戴きたいのであります。その時になれば始めて、同窓会の同窓会たる所以が、改めて深く認識されるのであつて、こゝに同窓会存在の意義が一層クローズアップされるのであります。

さらに我がるの は な 同窓会は、母校百周年記念事業の一環として、同窓会館建築計画が漸く、具体化されつつあります。今後私個人としまして、この方面にも、大いに努力する所存であります。会員

諸兄の御理解と御協力をお願いする次第であります。

以上我々の前途には、誠に困難な重大な問題が累積しておりますが、我々は同窓会を始めとして、全医師が互に協力して、この難局

昭和五十四年度

るの は な 同窓会総会開催

克服に邁進すれば、必ずや輝かしい希望に満ちた解決策が見出されるものと確信しております。終りに同窓会各位の御健勝と力強い御支援とを御願ひしまして御挨拶と致します。

昭和54年度るの は な 同窓会総会は、6月23日午後3時より千葉二ユーパークホテル別館において、有益常任理事司会により開催された。大塚会長の御他界により会長空席の総会となつたが小林金市副会長の挨拶に続き、井出副会長が医学部長として医学部近況報告を行なつた。旧病院の教育研究棟への改修の進展、新学生寮の完成、動物実験施設の概要要求等につき説明があり、さらに人事異動に関して佐藤博院長の再選、歯口科掘越教授の退官、薬剤部長として金久保教授が東北大学より着任のことが報告された。また新同窓会館の建設構想をすすめる必要はならないこと、千葉市が計画中のモノレールが医学部敷地内を利用することについては断固拒否するとの意向も重ねてあきらかにされた。さらに学生をめぐる問題は現在平穏であることも付言された。

急用により欠席の伊藤健次郎常任理事に代り、村山常任理事が一般会務報告を行なつたのち、大塚会長以下55名の物故会員への黙祷が捧げられた。井出副会長を仮議長に選出ののち、新会長選出をはじめとする役員改選の議が上程され、小林金市副会長を会長に昇任することが全会一致で承認された。小林新会長は会員一同の協力を求められ、また同窓会館の改築をやりとげたいとの意向を述べられた。自動的に空席となつた副会長の補充については慎重を期して後日改めて選出することとなり、他の役員人事は原案通り承認され向う3年間の構成がどこまでこころなく決定された。萩原常任理事より昭和53年度決算、昭和54年度予算について詳細報告、説明がありいずれも原案通り承認された。

一般質疑の中で黒部氏(昭11卒)による医学部百年史の中に音楽部演劇部等の小史が欠けていることの指摘、青木氏(昭36卒)による地域医療に関する委員会の新設がほしい旨の希望開陳等があつた。閉会の辞が嶋田副会長により述べられたのに引き続き、千葉大学工学部長小原二郎教授の「木の文化」と題する総会講演に移った。日本文化は木の文化なしに考えられない点につきユニークな発想が述べられ興味深いものがあつた。懇親会もまことに心の通い合う形のものとなり時間の経過を忘れさせた。

るの は な

同窓会役員

名誉会長 谷川 久治(昭2)
会長 鈴木 五郎(大11)
副会長 小林 金市(昭8)
井出源四郎(昭19)

常任理事

窪野 進(昭10) (会計)
永井 義三(昭10) (庶務)
田那村 保(昭16・3) (会計)
内田 成和(昭17) (庶務)
清水 衛(昭19) (庶務)
国井 光智(昭21) (会計)
斉藤 弘(昭21) (編集)
有益 忍(昭22) (集会)
笠川 猛(昭22) (集会)
伊東 宏一(昭23) (集会)
石川 清文(昭23) (集会)
萩原彌四郎(昭23) (庶務)
越川 衛(昭23専) (庶務)
稲垣 義明(昭26) (会計)
村山 智(昭26) (庶務)
鍋谷 欣市(昭27) (編集)
奥井 勝二(昭28) (編集)
永野 俊雄(昭30) (集会)
佐藤 保雄(昭6) (会計監事)
国分 信(昭18専)

るの は な 同窓会報・新編集部

奥井勝二(編集長・一外) 齊藤弘(国立千葉病院) 萩原彌四郎(脳研) 鍋谷欣市(杏林大・外科) 金子敏郎(耳鼻咽喉科 小堀恒雄(産婦人科) 新美仁男(小児科) 増田善昭(三内科) 中野義澄(神経内科)

会 計 報 告

昭和53年度 決 算 報 告

A 歳入の部

科 目	予 算 額	年度末収入計	差引高(△減)
財 産 収 入	150,000円	76,453円	△ 73,547円
会 費 収 入	3,000,000	4,539,500	1,539,500
事 業 収 入	600,000	825,800	225,800
寄 附 金	100	20,510	20,410
繰 入 金	0	0	0
繰 越 金	370,324	370,324	0
収 入 計	4,120,424	5,832,587	@ 1,712,163

B 歳出の部

科 目	予 算 額	年度末支出計	差引高(△減)
1. 事 業 費			
会 報 発 行 費	450,000円	346,990円	△ 103,010円
名 簿 発 行 費	200,000	0	△ 200,000
新 会 員 歓 迎 費	200,000	200,000	0
顕 彰 奨 学 費	100,000	0	△ 100,000
慶 弔 費	50,000	137,030	87,030
支 部 連 絡 費	200,000	125,000	△ 75,000
小 計	1,200,000	809,020	△ 390,980
2. 事 務 費			
備 品 費	30,000	0	△ 30,000
消 耗 品 費	150,000	104,620	△ 45,380
通 信 印 刷 費	1,200,000	1,194,900	△ 5,100
振 替 手 数 料	80,000	85,040	5,040
会 議 費	150,000	85,142	△ 64,858
諸 手 当	600,000	597,500	△ 2,500
謝 金 費	50,000	78,730	28,730
小 計	2,260,000	2,145,932	△ 114,068
3. 予 備 費			
基 金 繰 入 額	500,000	1,000,000	500,000
予 備 費	160,424	550	△ 159,874
小 計	660,424	1,000,550	340,126
支 出 計	4,120,424	3,955,502	⑤△ 164,922

繰越額(④+⑤) 1,712,163+164,922=1,877,085円

基 金 4,000,000+1,000,000=5,000,000円

今昔の話を花を咲
り、母校をしのび
遥か西方の地よ
欠席。
(蛇名洋助(昭48)



松浦 康彦
榎本 正満
都志見善親
戸田 智博(勉)
山 口 英
長崎 進
谷 修一
南園 義一
長 順一

第 二 回 山口県るの は な 同窓会開催
県内の会員が少なく、同窓会が
まだ開かれたことが無かったが、
本年4月、谷修一(昭38)県衛生
部長就任を機会に、第二回の同窓
会を6月14日、防府市松月ホテル
で開催した。
参加者は、山口英(昭7)、都志
見善親(昭8)、長
順一(昭13)、長崎
進(昭27)、南園義
一(昭30)、谷修一
(昭38)、榎本正満
(昭45)、松浦康彦
(贊助)の8名。
(蛇名洋助(昭48)

かせ、会長は山口英(昭7)を選
出、一年一回程度集ることを約し、
なごやかな会を終った。
(尚ほ、連絡もれの方は、防府消
化器病センター 0835・22・
3339 までお知らせ下さい。
(長崎 進・記)

昭和54年度 予 算 案

A 歳入の部

科 目	予 算 額	前年度費(減)
財 産 収 入	200,000円	50,000円
会 費 収 入	4,000,000	1,000,000
事 業 収 入	3,400,000	2,800,000
寄 附 金	100	0
繰 入 金	0	0
繰 越 金	1,877,085	1,506,761
収 入 計	9,477,185	5,356,761

B 歳出の部

科 目	予 算 額	前年度費(△減)
1. 事 業 費		
会 報 発 行 費	450,000円	0円
名 簿 発 行 費	4,200,000	4,000,000
新 会 員 歓 迎 費	200,000	0
顕 彰 奨 学 費	100,000	0
慶 弔 費	50,000	0
支 部 連 絡 費	200,000	0
小 計	5,200,000	4,000,000
2. 事 務 費		
備 品 費	30,000	0
消 耗 品 費	150,000	0
通 信 印 刷 費	1,500,000	300,000
振 替 手 数 料	100,000	20,000
会 議 費	150,000	0
諸 手 当	650,000	50,000
謝 金 費	80,000	30,000
小 計	2,660,000	400,000
3. 予 備 費		
基 金 繰 入 額	1,000,000	500,000
予 備 費	617,185	456,761
小 計	1,617,185	956,761
支 出 計	9,477,185	5,356,761



恒例のるの は な 同窓会埼玉支部
総会を5月13日(日)、大宮市で開き
ました。今年は、萩島辰之助先生
(大7年卒)、高塚武治先生(昭6年
卒)、千代倉俊夫先生(昭15年卒)
の三先輩が叙勲されましたので、
そのお祝いを兼ね、50名近い会員
が集り、盛大に行いました。
本部から、井出源四郎医学部長、
地元から埼玉医大内科教授で、本
学昭和26年卒の伊藤進先生をお招
きして、酒と煙草について、真面
目に、かつ面白くお話戴いた後に、
賑やかな宴会に入りました。例に
よって二次会まで、多くの先生方
に、おつき合い願ひ痛飲しました。
井上 幸万(昭27年卒) 記

「埼玉るの は な 会支部だより」

川喜田愛郎名誉教授学士院賞受賞

川喜田愛郎先生には、本年度の日本学士院賞を受賞された。最近出版された「近代医学の史的基盤」に対して受賞されたもので、対象となった同書は、古代ギリシャ・ローマから現代にいたる西欧医学の通史で、特にハーヴェイ以降の近代医学に重点を置いたもので、19世紀に医学が「病気の生物学」



生化学第一講座
三浦義彰教授
はかねてより
フランス医学に
御関心が深く、
また日仏両国間
の医学交流に多
大の尽力をされ
てきたが、この
たびその功績に
よりフランス政
府より「シュバ
リエ・ド・オル
ドゥル・ナショ
ナル・ド・メリ
ット勲章」が授
与された。去る4月27日東京麻布
のフランス大使館で授賞式が行わ
れ、駐日フランス大使ドージュ氏

三浦教授 (生化学第1講座)

シュバリエ・ド・オルドゥル・
ナショナル・ド・メリット勲章受賞

(定価・上巻五、八〇〇円・下巻七、二〇〇円)

より同教授に勲章が手渡された。

三浦教授は御父君の故三浦謹之助元東大教授がフランスに留学され、彼の地の学風に強い影響を受けたこともあり、幼少の頃よりフランス語を学ばれたこととなり、その御造詣は深い。かつて御家の水の日仏学院で医学フランス語の教鞭をとられ、本学には岡本昭二(皮膚科)、金子敏郎(耳鼻咽喉科)

神奈川るのはな会支部だより

神奈川のはな会支部会員は、現在312名の会員を擁し、昨年7月19日、本年2月17日にそれぞれ50名前後の参会者のもとに同窓会をなごやかに開催しました。昨年7月の集会は、井出医学部長、岡本教授の臨席を頂き、11月のときは中山恒明教授に御講演をお願いし、2月には木川隆一教授(北里大学内科)と中山恒明教授にお話しをして頂き、いづれも楽しい雰囲気、有意義な集会でした。

また5月27日は、李保文彦(昭和31年卒)が幹事となり、第一回親睦ゴルフ大会を、大磯レイクウッド東コースで開催しました。出席者は、杉谷(昭13年)、由井・清水(昭20年)等26名で、普通のコンペと異なるムードで終始し、また本会には、若手会員の同窓会出席をうながすという結果にもなり、他のコンペにはみられないような明るい雰囲気、表彰式まで終えました。次回は小田原地区主催です。県内同窓生多数の参加を歓迎しております。

次いで懇親会に入り、井出源四郎医学部長より、大学の近況を、奥井勝二講師より、あのはな同窓会報の編集の苦労話などを伺う。更に来賓の田中洋神奈川のはな会会長より、同地区のあのはな会の活動状況について、お話があった。嶋田前会長の音頭で乾乾、懇親会に移る。宴たけなわとなる頃には、外は夕間に包まれ、59階から眺める東京の夜景は、また格別の趣があった。例年の総会とは、会場が変ったせいか、大勢の参加があり、盛大な会であったが、欲をいえば

東京のはな会総会開催さる

昭和54年6月9日、池袋の名所となったサンシャインビル59階のレストラン「トリアノン」で、中村民比古会長(昭13年卒)になって初めての総会が開かれた。大学より、井出医学部長・奥井講師(一外)が出席され、約60名の参加を得て、盛会であった。

報告のあと、議事に入り、会費値上げ案が上提され、原則として終身会費を銀行に預託して、基金とする事と決定した。一部会員の便宜を計って、年会費制も残す事とした。次いで人事更迭の件では、嶋田宗之(昭9年卒)前会長を、あのはな会副会長に推す事が満場一致で可決された。

国立習志野病院
謝四恩会開催

国立習志野病院では、去る4月1日付で綿貫重雄名誉教授が、名誉院長に、若月岩雄副院長の院長昇任の発令をみた。去る5月14日(月)、千葉駅ステーションビルで、同病院主催になる謝四恩会と名づけた記念パーティが開催された。本学からは井出医学部長以下多数の教授・科長・鈴木五郎先生・斎藤弘国立千葉病院長等多くの同病院長とごみ深い方々100名近く参会した。綿貫名誉院長・若月院長は、開会に際して、感謝の心と今後の支援を願うという意の挨拶をされ、数多くの祝辞もあり、なごやかな雰囲気の中であった。同院は、習志野市の人口過密地帯にあり、各科とも急増する医療需要に対応し、これからの発展が要望されている。

安房医師会病院
15周年記念式典

安房医師会病院は、去る6月2日(土)、開催15周年記念式を館山市・海幸苑において開催した。本病院は安房医師会の運営する病院で、常勤は、手島一氏(昭和18年医専卒)・能勢匡夫氏(昭和25年医専卒)・本多満氏(昭和37年卒)の三氏であるが、多数の本学出身者の会員その他で運営されていることは、よく知られている。一般診療のほか、成人病検診・胃集団検診・高血圧検診・乳幼児検診等も医師会の事業として、精力的に行なっており、これまでに厚生大臣・日本医師会・日本対癌協会等から数多く受賞の栄に溢れている特色ある病院である。

上海市学術交流
友好訪問団来学

去る6月11日、中国復旦大学校長、蘇步青氏を団長とする学術交流友好訪問団18名が本学を訪れた。西千葉地区学内施設ならびに附属病院を見学した。日中両国間の学術交流が、今後一層進展することが期待される訪問であった。

新任教授 あいさつ

東北大学病院薬剤部長金久保好男(54・4・1発令)・助教
より昇任の佐藤研一(54・8・1発令)および樋口道雄(54・
4・1発令)の諸先生より新任の挨拶をいただいた。

金久保好男教授

(薬剤部)

(東京大学薬学部・昭和27年卒)
本年四月一日付で東北大学から
赴任し薬剤部長を併任すること
になりました。



薬剤部は医薬品を取り扱う専門
的機能を有する部門として長い歴
史を有しておりますが、近年まで
東京大学、京都大学に若干の助手
が配置されていた以外は技官をも
って構成されておりました。国立
大学病院薬剤部長会議では長年に
わたって教官職を要望して参りま
したが、最近に至り、東京大学、
京都大学はじめ若干の大学の薬剤
部長が教授に位置づけられ、本学
においても本年度から認められた
ことは誠に嬉しいことと存
じます。

かつて薬学部は医学部薬学科で
ありましたが、昭和三十三年東京
大学ではじめて学部となりました。
過去二十年、医学、薬学がそれぞ

れ大きな発展をとげたことは衆目
の一致するところでありますが、
薬学が専門に取り扱う物質は医薬
品である以上、改めて医学との緊
密な協力の必要性が痛感されるに
至りました。薬剤部に教官が配置
されたことはこの役割を担うと同
時に現在の薬剤部の業務を学問の
レベルに引きあげることと理解し
ております。従って長い歴史を有
する薬剤部であります。教官の
配置によって若干の軌道修正と意
識の改革が必要と考えております。
薬剤部長としては十三代目とのこ
とですが、その意味では初代とも
いえるかと存じます。しかし何分
にも現状は教授一人という状態
でありまして、今後の御指導、御鞭
撻をお願い申し上げます。

(金久保 好男)

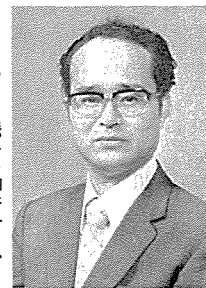
佐藤研一教授

(歯科口腔外科)

(昭和35年卒)

私共の教官の歴史は、入戸野賢
二先生が創立千葉病院第二外科部
長を嘱託された大正元年(一九一
二年)に、一診療科として発足し
た時から始まりました。以来幾多
の先輩が歯科口腔外科の発展のた
め御尽力されましたが、就中、講
座新設のためには多くの犠牲性と長

い苦難の道があったといわれます。
昭和三十年正式に診療科として、
昭和三十七年歯科口腔外科講座と
して認可されるまで、約半世紀の
年月が経過したわけですね。



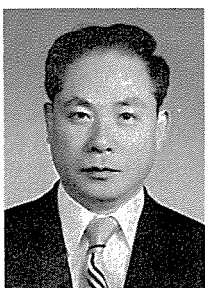
このような幾多の御苦労と、そ
の情熱により築きあげられた伝統、
さらに堀越達郎教授の輝かしい業
績を継承しつつ、教室ならびに口
腔外科の発展に努力する所存でござ
いますので、何卒同窓会各員各位
におかれましては、旧倍の御指導・
ご鞭撻をお願い申し上げます
と共に、教室の今後の発展に暖か
い御支援を賜りますようお願い致
します。

樋口道雄助教

(中央手術部)

(昭和29年卒)

今度、諸先生の御推薦で、中央
手術部の部長に就任させていただ
きました。第一外科在任中のご厚
情と合せて深く感謝しております。



さて、中央手術部では本学病

第21回日本平滑筋学会開催さる

第21回日本平滑筋学会は、本学
第2外科佐藤博教授を会長として
昭和54年6月15・16日の両日千葉
市千葉港・ニューパークホテルで
開催された。特別講演として、小
野慶一(弘前大学助教授)によつて、
「胆汁の排出機序とその臨床」シ
ンポジウム(I)「消化管の痙攣性収
縮」(II)「食道内圧に関する諸問題」
が行われた。一般講演は75題の発
表が行われた。参加者は、およそ
300名程度であり盛会であった。

本学会の内容は、消化管を始め
とする平滑筋の生理・病理・病態
生理、さらには治療面における諸
問題が討議されて来た。発足の当
時は平滑筋電図研究会の名称で、
その主旨は臨床医が普段接する機
会のない基礎医学の先生方に種々
基礎的な問題について、教える乞
う集まりであったと記憶している。
現在でもなお、この伝統は引き継
がれ、参加者の約半数が生理・薬
理学者である。今回も、平滑筋の
基礎について、われわれ臨床医が
接することができ、有意義な会であ
った。

(第二外科・平島 毅)

昭和26年卒業生クラス会

本年は久我哲郎、大倉淳男両君
が幹事をつとめ、去る5月20日、
皇居を前にする東京会館にてなご
やかな午餐会をもつた。2年後に
迎える卒業30年記念会の準備に入
ることなどを語り合った。いつも
クラスの半数以上が集るが、本年
も一人一人近況を語り、まさに旧
交をあたためた。(村山 智記)

千葉大学医学部アレギー懇話会

15周年記念講演会開催

年3・4回の割合で開催されて
いる千葉大学アレギー懇話会も
今年で50回、15年目を迎えるこ
とになり、それを記念して本年6月
2日(土)共済会館において15周年
記念講演会が開催された。川喜田愛
郎、岡田篤、北村武名譽教授、木
村康、多田富雄、奥田稔教授をこ
講演者としてお招きし、3時間
亘って設立当時からの活躍の諸先
輩と学生まで含めた若い学究、約
100名が一堂に会してアレギー学
の将来の方向をみきわめる機会を

第一頁となった巨抗体が石坂公成
・照子博士によつて発見されたの
が一九六七・九九年にかけての出
来事であっただけに、その時期に先
がけての懇話会の発足はまさに先
見の明があったと言わざるを得な
い。千葉大学が日本のみならず、
世界的にも著明な、数多くのアレ
ギー、免疫学者を今なお世に送
り出しているのは、この母体があ
るからであらう。これからますます
この会が発展することを関係
者の一人として念ずるものである。
15周年実行委員会幹事 谷口 克
(免疫研究部)

清水厚生病院の近況

副院長 高相豊太郎

昭和34年五月金田院長と共に清水厚生病院に赴任して早いもので20年が経ちました。

昭和37年に当時清水駅前にあった木造の古い病院から現在の病院に新築移転し、地域の中心的存在を自負してやって来ましたが、その後の高度経済成長、医学水準の驚異の向上等により、現在の病院の質的・量的不足が目立ちはじめ、中心的役割を果たし得なくなるおそれを生じて来ました。

そこで関係各方面の理解と協力を得て、今一度の新築移転が本決りとなり、総工費約50億、400床の新病院の設計に入っております。昭和56年春のオープンを目指して全職員張り切って居ります。ちなみに当院は静岡県厚生連の経営による病院です。

現在当院勤務の「あのはな」同窓会員は、内科に金田丞亮(昭20卒)、高相豊太郎(昭28)、蜂巣裕昭(昭34)、七辺二三(昭38)、菅谷純弘(昭45)、内海勝夫(昭50)、広岡昇昭(昭52)、他学2名を加えて9名で消化器を中心に、三輪名譽教授、奥田教授の定期的御来院、御指導を受けて居ります。小児科は榊原秀三(昭35)、森本典子(昭51)の2名で未熟児を中心に忙しくやっています。外科は原壮(昭40)、木村正幸(昭52)、荻野幸伸(昭53)の3名で、佐藤教授の御指導の下、消化器を中心に活躍しています。整外は土川秀紀(昭44)、矢島敏晴(昭50)、武内重樹(昭53)の3名で井上教授の御指導の下、毎日おそくまで頑張っています。脳外科は泉屋嘉昭(昭44)、文隆雄(昭46)、山本俊樹(昭51)の3名で、

濱松医大へ転出された植村教授の御指導の下、CTスキャナを駆使して周辺地域も含めて多くの患者の診療に忙しい毎日です。耳鼻科は植田尚男(昭28)が開業後常勤医がなく、同君の週一回の診療をお願いしています。産婦人科は現在同窓生は居りませんが、高沢沢教授の御高配



により近々2名来て下さるようになっていきます。又、当院OBも市内に多く開業され盛大にやって居られます。外科鈴木太郎(昭22)、整外渡辺良彦(昭24)、内科渡辺栄一(昭30)、内科宮部浩(昭30)、外科斎藤全彦(昭37)、内科鈴木清磨(昭38)、静岡市に整外伴野恒雄(昭34)の諸氏です。市内には他に同窓生も多く、外科渡辺六郎(昭10)、吉野正文(昭10)、眼科信夫洋太郎(昭13)、眼科大山茂(昭16)、小児科猪野実(昭

訃報 謹んで哀悼の意を表します

市川重平先生 訃摩武人先生



市川重平先生(大正元年医専卒)には去る5月3日、91歳の天寿を全うされました。先生は大正7年から市内市場町にて、耳鼻咽喉科を開業され、そのかわり、学校保健・社会保険医療等の公共医療にも尽力され、藍綬褒章・勲四等旭日小授章、厚生大臣・千葉県知事賞等も受賞されております。同窓会については常任理事を長く務められていたことはご存知の通りであります。謹んで哀悼の意を表し、ご冥福を祈ります。



本学名誉教授、訃摩武人先生には、去る1月26日、東京女子医科大学付属病院にて他界された。生前千葉医科大学および東京大学医学部にて小児科学の教授をつとめられておられたので、千葉大学・東京大学小児科教室の合同葬が信濃町の千日谷会堂で、両大学関係者が多数参列して、おごそかにとり行なわれた。なお先生は大正10年東京大学卒業で、大正15年より昭和21年まで、本学に在職された。



今井五郎先生

横濱市立港湾病院名誉院長今井五郎先生には、去る4月20日、逝去された。先生は本学卒業後第二外科に入局され、昭和24年4月、三重県立医専教授、25年6月横濱市立医科大学講師・助教授を経て、38年横濱市立港湾病院外科部長、40年3月に同院長、53年3月退職まで、同院の発展のため尽力された。この間常習性便秘症の外科的治療など多くの研究業績をあげられた。第15回日本医学会総会では腸疾患の臨床治療で特別講演もなされている。

書評 医院経営の工夫 (第2版)

関根 博 著

著者は昭和26年卒、現在東京都東村山市に開業している。昭和47年に出版された同書に医薬分業、請求事務のコンピュータ化その他の項目を加え、全体に加筆された第2版である。本書は医院経営の将来、医院管理の工夫、医院建築の工夫、保険事務の工夫等の章より成り立っているが、院長も掃除をしようとか、従業員が用いてはならない言葉づかいとか一見何でもないことのように実は大切な問題にまで筆が及ばれている。さつと読んで、じっくり味わってもためになる本といっておけばよいかもしれない。(医歯薬出版・B6版一七九頁・二、五〇〇円)(S・M)

書評 サルコイドージス

日本サルコイドージス研究會 編

いわゆる貴重本というものの一つに挙げられるものに本書がある。いろいろ不明な点の多い本症につき現在これ以上明確にしてく

新年度第一回常任理事会

役員改選後の常任理事会が、七月六日、記念講堂南側会議室で開かれ、左記の事項が決定した。

一、会務分担の件、別記(一面)のとおり常任理事の会務分担が決定した。なお同窓会館建設に關しては百周年記念事業の委員会(井出委員長)と連絡を保ちつつ、ゐるのは同窓会の会長および副会長ならびに東京のものは中村会長が担当することとなった。

二、名簿発行の件、昭和五十四年度版新名簿は、前名簿と同じB5版、約三五〇頁の規格で、本年十二月下旬発行をめどに作業を開始することとなり、萩原常任理事ほか、会長候補の委員会がその任に当ることとなった。なお、別記(

新名簿予約申込みご案内

ゐるのは同窓会会員名簿、昭和五十一年版を発行して以来、すでに三カ年が過ぎ、その間住所、地番、電話番号などの変更が相次ぎまた今年度役員の改正が行なわれましたので、その改訂を急いで発行の運びとなりました。

つきましては左記のごとく、新名簿予約のご案内を申し上げます。

昭和五十四年九月

ゐるのは同窓会本部

一、発行予定 昭和五十四年十二月上旬

記

〇(一)にお願いします。

人事異動

昭和54・1・15・6・30

〇教授昇任(順不同・敬称略)

千葉胤道(第二解剖講師・昭36卒)

佐賀医科大学に

土屋尚義(第一内科講師・昭29卒)

千葉大学教育学部に

窪田靖夫(眼科助教授・昭28卒)

富山医科大学に

片山喬(泌尿器科助教授・昭30卒)

富山医科大学に

金久保好男(四面)

〇助教昇任

宮内好正(第一外科講師・昭30卒)

小堀恒雄(産婦人科講師・昭31卒)

樋口道雄(第一外科助手・昭40卒)

中村泰久(眼科講師・昭40卒)

富山医科大学に

中田瑛浩(泌尿器科講師・昭38卒)

富山医科大学に

横山宏(小児外科講師・昭34卒)

千葉大学教育学部に

大川治夫(小児外科助手・昭36卒)

筑波大学小児外科に

〇講師昇任

鎗田努(肺外科助手・昭41卒)

島田哲男(耳鼻咽喉科助手・昭41卒)

藤沢武彦(肺外科助手・昭42卒)

金井塚道節(千葉労災病院眼科・昭32卒)

国立千葉病院に

転出・武者広隆(第一内科助手・昭40卒)

真家雅彦(小児外科助手・昭35卒)

黒田紀子(眼科助手・昭40卒)

安田耕作(泌尿器科助手・昭42卒)

小林伸行(耳鼻咽喉科助手・昭41卒)

門田明子(第二解剖・大阪大学大学院昭48卒)

谷口克(免疫研究部助手・昭42卒)

望月博(産婦人科助手・昭40卒)

小林英夫(整形外科

通り雨のあと

編集長を辞するに当って

村山 智(昭26年卒)

明るい通り雨がやって来て、一本の大きな樹の下で何人かが雨宿りをしている。知らなかつた者同士が話し合う。やがて通り雨が去ると皆それぞれの方向に散って行く。何年か、何十年かしても、その大きな樹の下で忘れられぬ。それどころか時が経つにつれていよいよその樹がなくなつていく。そんな時に便りがほしい。その樹がずいぶん大きくなつたとか、枝が一本枯れたとか、昔より多く

弘(第二内科助教授・大阪大学昭34卒) 大阪日生病院に、飯泉修(耳鼻咽喉科講師・金沢大学昭38卒) 横須賀共済病院に、伊東範行(麻酔科講師・昭44卒) 千葉県救急センターに、露崎孝二(歯科口腔外科講師・東京医科歯科大学昭42卒) 開業

編集後記

長い間の御支援に改めて深い感謝を捧げます。一九七九年、夏、ひぐらしをききつつ。

今回はからずも本誌編集委員長の大役をお、せつかり、その責任の重大さを痛感しております。年四回発行を努力目標として、編集委員一同努力しますので、よろしく御支援と御助言等戴きたく、お願い致します。70号も会長就任挨拶・総会記事・各新任教授・部長の抱負・各地のものはな会だより等数多くの原稿を戴き、前号に引続き六頁としてお届けします。

小林金市新会長のご挨拶にもありましたが、わが同窓会も四千五百名余の多くの会員を擁する大世帯ですが、とかく新旧縦の絡りは、とかく薄いような感じがなくもありません。

〇森川隆平氏(大正元年卒)・東京市台方六三・八月十六日逝去・同氏は、長野県立須坂病院院長森川不二男氏(昭和19年卒)・千葉県立鶴舞病院院長宮崎隆次氏(昭和23年卒)の御尊父にあたられる。89才。

〇安達与五郎氏(大正五年卒)・小樽市稲穂一八・一五・八月二十一日逝去・86才。同氏は、昭和二十六年より四期十六年小樽市長戦後日ソ友好関係にたづさわっていた。

第56回千葉医学会学術大会のお知らせ

日時 昭和54年11月17日(土)

14時30分より

場所 千葉大学医学部 病棟示説講堂

パネルディスカッション

1、内科の立場から 脳血管障害

千葉大学教授 平山恵造

2、外科の立場から 鈴木二郎

東北大学教授 篠崎幸一・佐藤孝三

司会

〇森川隆平氏(大正元年卒)・東京市台方六三・八月十六日逝去・同氏は、長野県立須坂病院院長森川不二男氏(昭和19年卒)・千葉県立鶴舞病院院長宮崎隆次氏(昭和23年卒)の御尊父にあたられる。89才。

〇安達与五郎氏(大正五年卒)・小樽市稲穂一八・一五・八月二十一日逝去・86才。同氏は、昭和二十六年より四期十六年小樽市長戦後日ソ友好関係にたづさわっていた。

(奥井勝二)